

## 研究成果及び活動一覧 (2015. 1. 1～12. 31)〔五十音順〕

- A：著書、論文、書評など  
 B：学会での口頭発表その他の活動  
 C：講演、論説など  
 D：学術的調査

## 青山英正

- A：1 (解説) 尾崎紅葉『七十二文命の安売』(リプリント日本近代文学 265)、国文学研究資料館、pp 27-28、1. 30.  
 2 (解説) 江見水蔭・尾崎紅葉『花の杖 紅子戯語』(リプリント日本近代文学 268)、国文学研究資料館、pp 165-166、1. 30.  
 3 (論文)「恵比須屋島田八郎左衛門家の人々——『花集』の編者島田充房を中心に」、『明星大学研究紀要 人文学部日本文化学科』第 23 号、pp 211-229、3. 20.  
 4 (研究ノート)「『リンボウ先生の書誌学講座』受業記」、『国文研ニュース』第 39 号、p 8、5. 8.  
 5 (研究ノート)「橋本政恒の和歌——近世後期における地方神主の歌風一斑」、『お舟津さん』第 16 号、p 8、9. 1.  
 6 (書評)「松澤俊二『くよむ』ことの近代」、『日本近代文学』第 93 集、pp 204-207、11. 15.
- B：1 科学研究費補助金基盤 (B)「伊勢商人の文化的ネットワークの研究——石水博物館所蔵書簡資料をもとに」(研究課題番号 15H03183)、研究代表者。  
 2 (共同研究) 人間文化研究機構国文学研究資料館特定研究「日本の近世における中国漢詩文の受容——三体詩・古文真宝の出版を中心に」(研究代表者：高橋智)、研究分担者。  
 研究会日程：1. 23、5. 22、6. 19、7. 24、10. 23、11. 20、12. 18.  
 3 (学会活動) 日本文学協会委員。  
 4 (学会活動) 日本近世文学会委員。  
 5 (学会活動) 日本近世文学会編集委員 (事務局)。  
 6 (学会活動) 日本近世文学会広報企画委員。  
 7 (学会活動) 日本近世文学会ホームページ作成委員。  
 8 人間文化研究機構国文学研究資料館文献調査員。  
 9 (口頭発表)「近世の相書について」、総合研究大学院大学・学融合推進センター・戦略的共同研究・公開セミナー「観相 (人相見) 資料の学際的研究」、国文学研究資料館、2. 16.  
 10 (口頭発表)「尊王攘夷表現における和歌と漢詩」、国際ワークショップ「幕末漢詩文の“かたち”」、於大阪大学豊中キャンパス、4. 10.  
 11 (口頭発表)「恵比須屋島田家と京都鈴門」、第 32 回鈴屋学会大会、於本居宣長記念館、4. 19.  
 12 (研究活動) 第 10 回幕末明治研究会 (共同発起人：前田雅之・上原麻有子)、主催、

於京都大学吉田泉寮、6.20.

発表：①万波寿子氏（龍谷大学非常勤講師）「真宗版本の姿とそのメディア性」

②佐伯啓思氏（京都大学名誉教授）「西田哲学と近代日本の宿命」

- 13（研究活動）第11回幕末明治研究会（共同発起人：前田雅之・上原麻有子）、主催、於明星大学、12.19.

発表：①多田蔵人氏（鹿児島大学准教授）「明治文学と演説」

②井上泰至氏（防衛大学校）「秀吉の神格化—宣長から靖国まで」

- C：1（公開講座）「17世紀日本の出版文化」、明星大学創立50周年記念講座「17世紀初頭の日英における出版文化の比較」、於明星大学、1.15.

- 2（公開講座）「近代日本と神道」、明星大学人文学部日本文化学科公開講座、於明星大学、10.24.

- D：1（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、1.24-25.

- 2（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、2.21-22.

- 3（学術調査）京都府立総合博物館・天理大学天理図書館所蔵文献調査、於京都府立総合博物館・天理大学天理図書館、3.4-5.

- 4（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、3.12-13.

- 5（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、4.24-26.

- 6（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、5.16-17.

- 7（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、6.6-7.

- 8（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、7.25-26.

- 9（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、8.11-13.

- 10（学術調査）国文学研究資料館調査収集事業における文献調査、於鯖江市舟津神社、8.17-19.

- 11（学術調査）津市津図書館所蔵文献調査・石水博物館所蔵書簡調査、於津市津図書館・津市石水博物館、9.7-11.

- 12（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、10.17-18.

- 13（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、11.27-29.

- 14（学術調査）石水博物館所蔵書簡調査、於津市石水博物館、12.12-13.

## 内海敦子

- A：1 “Topic-marking Constructions in Bantik”（単著）、*Proceedings for the second workshop on information structure of Austronesian languages*, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 pp 42-51, 3.1.

- 2 「Bantik 語の Pluractional Verb—意味分析と用例—」（単著）、『明星大学研究紀要—人文学部—日本文化学科』第23号、pp 330-344, 3.20.

- 3 「北スラウェシ州の民話の分類」（単著）、日本インドネシア学会学会誌『言語と文化』第21号、pp 67-75, 5.15.

- B : 1 研究会発表 (単独): “Topic-Marking Constructions in Bantik”, 第四回オーストロネシア諸語の情報構造に関する国際ワークショップ、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2. 12.
- 2 研究会発表 (単独): “Markers for Information Structure in WMP languages”, 第五回オーストロネシア諸語の情報構造研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、5. 10.
- 3 学会発表 (単独): 「インドネシア・フィリピンの諸言語における情報構造の分析」、第150回日本言語学会、大東文化大学板橋キャンパス、6. 20.
- 4 学会発表 (単独): “Potential and Accidental Verbs in Sangiric Languages”, 13th International Conference on Austronesian Linguistics, Academia Sinica: Taiwan, 7. 18.
- 5 学会発表 (共同、Anthony Jukes, Atsuko Utsumi, Takashi Nakagawa): “Directional and Relative Height Terms in Sangiric Languages”, 13th International Conference on Austronesian Linguistics, Academia Sinica: Taiwan, 7. 21.
- 6 研究会発表 (単独): “Sun: Austronesian”, アジア地理言語学研究、第二回研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、12. 19.
- 7 「通言語的視点から見たオーストロネシア諸語の情報構造」研究会主催、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究利用・共同研究課題、1. 1-12. 31.
- 8 日本言語学会運営委員、7. 1-12. 31.
- 9 Coordinator of “Workshop on Language Documentation at Manado”, 主催: Linguistic Dynamics Science Project (LingDy2), 共催: Manado State University and ILCAA, TUFS, 開催場所: Manado State University, 8. 6-8. 7.
- C : 1 講演: 「インドネシアに見る国家とイスラム教」、2015年度明星大学日本文学学科公開講座、10. 3.
- 2 講演: “Dialectal Differences in the Talaud Language”, Workshop on Language Documentation at Manado, Manado State University, 8. 07.
- D : 1 Manado State University (インドネシア北スラウェシ州) におけるワークショップ開催の準備・運営、8. 4~8. 7.
- 2 インドネシア北スラウェシ州における少数民族言語調査およびインドネシア語マナド方言調査、8. 8.~8. 18.
- 3 第46回日本インドネシア学会参加、京都外国語専門学校、11. 14.~11. 15.
- 4 第151回日本言語学会 運営・参加、名古屋大学、11. 28.~11. 29.

## 勝又 基

- A : 1 (著書) 『孝子をたずねる旅—江戸期社会をささえた人々』、pp. 1-247、三弥井書店、3. 31

- B : 1 科研費補助金(基盤(C))「孝子伝をめぐる幕府と地方——『官刻孝義録』と藩政資料を比較して(課題番号 25370237) 研究代表者(4.1~)
- 2 三菱財団人文科学助成金「UC バークレー校旧三井文庫蔵写本群の研究—世界貢献できる解題目録の作成をめざして」代表(9.1~)
- 3 (学会活動) 日本近世文学会 委員(1.1~12.31)
- 4 ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所客員研究員(~3.31)
- C : 1 (口頭発表) “What is More Precious than Parents?: The Decline of Filial Commendations in Modern Japan”, Workshop “Contemporary Japan: A 400-Year Retrospective”, Harvard University, 2.25 (英語による発表)
- 2 (ゲストスピーカー) 落語の解説と実演、米国マサチューセッツ大学アマースト校、3.4 (英語による発表)
- 3 (招待講演) “Five College Japan Lecture Series: Rakugo Lecture and performance of Jugemu and Tokisoba”, 米国マサチューセッツ大学アマースト校、3.4 (英語による発表)
- 4 (招待講演) “Rakugo Comes to Brandeis”, 米国ブランダイス大学、3.20 (英語による発表)
- 5 (口頭発表) 「近世仏教と孝子伝—明学がもたらしたもの」、九州大学国語国文学会、九州大学、5.15
- 6 (招待講演) 「仏教と孝子伝—日中十七世紀の文化交流」、東アジア比較文化国際会議日本支部大会、明星大学、6.13
- 7 (口頭発表) “The Face of Oiwa: The Evolution of the Visual Effect in the Horror Narratives of Yotsuya Kaidan”, 24th Annual Association of Japanese Literary Studies, The University of Illinois at Urbana-Champaign, 10.10 (英語による発表)
- 8 (エッセイ) 「怪談ができるまで」、明星大学人文学部日本文化学科ホームページ「ことばと文化のミニ講座」87、明星大学人文学部日本文化学科、12.18
- 9 (口頭発表) 「水足屏山『肥後州民謡伝』について」、雅俗研究会、九州大学、12.26

#### 向後恵里子

- A : 1 「露助の表象—日露戦争期における敵としてのロシア兵イメージをめぐる—」『明星大学研究紀要』第23号、pp.301-310、2015.3.
- 2 「嗚呼聖代の教へ草——幻燈のなかの戦争」、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、大久保遼他編『幻燈スライドの博物誌 プロジェクション・メディアの考古学』、青弓社、2015.3.
- B : 1 研究会発表:「イメージの破壊・破壊のイメージ—〈イコノクラスム〉についての考察をはじめめるにあたって」、科研「日本近代における〈イコノクラスム〉—破壊をめぐる視覚表象研究」第1回研究会(早稲田大学)、7.25.
- 2 学会発表:「目撃される英雄: 近代の戦争における従軍者の語り、観戦者のまなざ

- し」、軍記・語り物研究会、《戦後 70 年企画》「近代日本と軍記物語—戦争と英雄像—」シンポジウム（東洋大学）8. 24.
- 3 研究会発表：「乳と貝—近代日本における人魚の乳房と貝殻の力学 3」、科研「乳房」の図像と記憶—中国・ロシア・日本の表象比較研究 2015 年度第一回例会（北海道大学）8. 29.
- 4 学会発表：「明治美術研究をひらく—いまいちど近代を考えるために」明治美術学会、シンポジウム「明治美術研究の可能性」（神奈川県立歴史博物館）9. 26.
- 5 研究会発表：「パノラミック・メモリー—博物館のパノラマ・ジオラマと戦争のリアリティ」科研戦争のメモリー・スケープ研究会（明星大学）11. 21.
- 6 学会発表：「黒い膚の幻想——日本近代の〈黒人〉イメージをめぐる」サントリー文化財団研究助成プロジェクト第 5 回国際シンポジウム「東アジアにおける大衆的図像の視覚文化論」（同志社大学）12. 26.
- 7 科学研究費：研究代表者、基盤研究（C）、「日本近代における〈黒人〉図像—人種表象の視覚文化史」（課題番号 26370182）2014-16 年度。
- 8 科学研究費：研究分担者、基盤研究（B）、「乳房」の図像と記憶—中国・ロシア・日本の表象比較研究」（研究課題番号 25284065）2013-15 年度、研究代表者：武田雅哉（北海道大学）。
- 9 科学研究費：研究分担者、基盤研究（B）、「社会主義文化における戦争のメモリー・スケープ研究—旧ソ連・中国・ベトナム」（研究課題番号 25283001）2013-16 年度、研究代表者：越野剛（北海道大学）。
- 10 科学研究費：連携研究者、基盤研究（C）「20 世紀中国プロパガンダ芸術の多角的研究—ポスター・連環画・様板戯」2014-17 年度（研究課題番号 26370405）、研究代表者：田村容子（福井大学）。
- 11 科学研究費：研究分担者、基盤研究（B）、「日本近代における〈イコノクラスム〉—破壊をめぐる視覚表象研究」（研究課題番号 15H03179）2015-19 年度、研究代表者：丹尾安典（早稲田大学）。
- 12 国文学研究資料館公募共同研究：研究分担者、「生巧館制作による木口木版の研究—国文学研究資料館所蔵品を中心に」2015-16 年度、研究代表者：石井香絵（早稲田大学）。
- 13 早稲田大学演劇映像学連携研究拠点平成 27 年度研究課題：研究分担者、「プロジェクト・メディアの考古学：幻燈資料の整理・公開とデジタルデータを活用した展示・創作」2015 年度、研究代表者：大久保遼（東京藝術大学）。
- 14 早稲田 表象・メディア論学会：会計監査担当。
- C：1 高校 OB 講演：「〈見ること〉に魅せられて—美術・イメージの歴史を研究すること」、佐原高校 OB 夢授業（千葉県立佐原高等学校）、12. 12.
- D：1 自主研究会・学外授業：「美術・視覚文化研究会」として、また「比較文化基礎演習」「比較文化演習」の受講者へも参加を募り、以下の美術館見学会・講演会聴講

を行った。

「没後100年小林清親展」(練馬区立美術館) 5. 17.

「大英博物館展—100のモノが語る世界の歴史」(東京都美術館) 6. 14 (「比較文化研究」学外授業)。

「No Museum, No Life?—これからの美術館事典」(東京国立近代美術館)、「幻燈展—プロジェクション・メディアの考古学」(早稲田大学演劇博物館) 7. 29.

中央大学国文学会講演会：岩切信一郎「近代の印刷・出版文化の中の浮世絵—その変貌と変遷」中央大学、10. 21.

「浮世絵から写真へ—視覚の文明開化」(江戸東京博物館) 11. 4.

「デジタル・アイズ—文化財「新」発見」ギャラリー・トーク(多摩美術大学美術館) 12. 23.

- 2 学術調査：早稲田大学草原真知子教授所蔵幻燈関係資料を調査(早稲田大学演劇映像学連携研究拠点「プロジェクション・メディアの考古学：幻燈資料の整理・公開とデジタルデータを活用した展示・創作」による共同研究)。1. 6.
- 3 学術調査・授業準備：ロンドンにおいて在外日本美術・視覚文化資料、また戦争のイメージ関連資料調査および15年度「比較文化研究」のための下見を行った。2. 8-2. 14.
- 4 学術調査：台湾：台北、金門島を中心に戦争の記憶にまつわる資料調査(科研「社会主義文化における戦争のメモリー・スケープ研究—旧ソ連・中国・ベトナム」(研究課題番号25283001)による共同研究)。3. 3-3. 7.
- 5 学術調査：茨城大学金子一夫教授所蔵の幻燈下図資料を調査。3. 17.
- 6 学術調査：国文学研究資料館において木口木版関係資料調査(国文学研究資料館公募共同研究「生巧館制作による木口木版の研究—国文学研究資料館所蔵品を中心に」)。5. 9.
- 7 学術調査：新渡戸文化短期大学岩切信一郎教授所蔵木口木版関係資料を調査(国文学研究資料館公募共同研究「生巧館制作による木口木版の研究—国文学研究資料館所蔵品を中心に」)。8. 3.
- 8 学外授業：15年度「比較文化研究」の一貫として、ロンドン、オックスフォード、ストラットフォード・アポン・エイボンへ学生7名を引率した。9. 6-9. 12.
- 9 自主研究会：星友祭において「和紙」をテーマにした展示・和本作り体験を行った。11. 1-2.

#### 古田島洋介

- A：1 論文：「現代日本語における漢文訓読表現——具体例と問題点——」、『タイ国日本研究国際シンポジウム2014 (International Symposium on Japanese Studies in Thailand 2014) 論文報告書』、チュラロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座、タイ国バンコク市、pp. 79-91、3. 1.
- 2 論文：「真剣摘まみ取り——漢文法の「補語」について(初稿)」、明星大学研究紀要《人文学部日本文化学科》第23号、pp. 11-25、3. 20.



- B : 1 研究発表：「ベルリン大学附属「東洋語学校」をめぐる——十九世紀末日中文人の交流の一側面——」、東アジア比較文化国際会議 2015 年度日本支部大会、明星大学 26 号館 509 教室、14:25-15:00、6.13.
- 2 体験授業：「レ点はどこに打つのか——返り点をめぐる禅問答」、明星大学オープンキャンパス、28 号館 202 教室、9.20.
- 3 講演：「台湾の道教——個人的体験から観た国家と宗教——」、平成 27 年度明星大学人文学部日本文化学科公開講座「国家と宗教」第 3 回、明星大学 28 号館 114 教室、12:55-14:25、10.17.
- 4 東アジア比較文化国際会議日本支部支部長（平成 24.6.9.～）
- C : 1 論説：「〈公正と信義《に》信頼して〉は誤りか？——石原慎太郎氏の憲法前文修正案をめぐる——」、明星大学人文学部日本文化学科 HOME PAGE「ことばと文化のミニ講座」vol.91、6.18. up 掲載開始
- D : 1 学術顧問+監修：大正天皇御製詩碑「中村公園」の建立について学術顧問を務め、かつ当該詩碑に関する説明板の字句（訓読・大意など）を監修。名古屋市中村公園、詩碑建立除幕式、4.5.
- 2 武術指導：学生による自主研究会「日中武道比較研究会」の顧問として、日本少林拳同盟会会長：川口賢氏を二回にわたって招聘し、少林通臂拳を中心に指導。6.30、12.1.

#### 柴田雅生

- B : 1 三宝絵詞中巻のデータベース（試作版）構築
- D : 1 3 年次の日本文化演習で、学生とともに、関戸本（東大寺切）『三宝絵詞』の本文研究を行う。
- 2 2 年次の日本文化研究において、テーマ「辺境から見る日本文化」のもと、秋山郷（長野県下水内郡栄村）において、山の暮らしを体感し鈴木牧之の足跡を辿るなどの実地研修を行う。8.6-8.
- 3 学生による自主研究会「日本語研究会」の顧問として、星友祭における展示（明治初期の外来語、新方言）の企画監修を担当、10.31-11.2.

#### 田村良平（筆名：村上湛）

- A : 1 評論：「緊張切れない身体強度～第 9 回香川靖嗣の会〈木賊〉（シテ：香川靖嗣、喜多六平太記念能楽堂、4.4.）、『日本経済新聞』夕刊、4.9.
- 2 評論：「女性地謡、続く挑戦～鶴澤久の会研究公演〈卒都婆小町 一度之次第〉（シテ：野村四郎、喜多六平太記念能楽堂、7.11.）、『日本経済新聞』夕刊、7.22.
- 3 評論：「向上の一路～片山幽雪追悼」、『能楽タイムズ』3 月号、能楽書林、3.1.
- 4 評論：「ふるえる魂の遺言～近藤乾之助追悼」、『能楽タイムズ』7 月号、能楽書林、7.1.

- 5 評論：「藝の二筋道～梅若万三郎と梅若玄祥 平成27年6月の能・狂言」、『能楽タイムズ』8月号、能楽書林、8.1.
- 6 評論：「宝生閑の凄演・玄祥と万三郎の名演～平成27年10月の能・狂言」、『能楽タイムズ』12月号、能楽書林、12.1.
- 7 評論：『『さよなら公演』から～初日・最終日の舞台評』、『観世』6月号、檜書店、6.1.
- 8 評論：「今、こんな歌舞伎が見たい！～義太夫狂言の探求と伝承」、『演劇界』9月号、演劇出版社、9.5.
- 9 評論：「平幹二郎の〈王女メディア〉～再燃への期待」、〈王女メディア〉上演パンフレット、幹の会+リリック、9.30.
- 10 評論：「能・狂言と日本舞踊」、国立劇場第147回舞踊公演「能狂言の舞踊」パンフレット、独立行政法人国立劇場、5.23.
- 11 解説：「能〈富士山〉、復曲狂言〈茄子〉、能〈野守 黒頭〉」、『国立能楽堂』377号、pp.9-11、独立行政法人国立能楽堂、1.7.
- 12 解説：「狂言〈武悪〉、能〈咸陽宮〉」、『国立能楽堂』378号、pp.10-11、独立行政法人国立能楽堂、2.4.
- 13 解説：「狂言〈鬼瓦〉、能〈桜川〉」、『国立能楽堂』379号、pp.13-14、独立行政法人国立能楽堂、3.4.
- 14 解説：「狂言〈長光〉、能〈忠度〉」、『国立能楽堂』380号、pp.4-5、独立行政法人国立能楽堂、4.11.
- 15 解説：「狂言〈真奪〉、能〈千手〉」、『国立能楽堂』381号、pp.4-5、独立行政法人国立能楽堂、5.9.
- 16 解説：「狂言〈饅頭〉、能〈実盛〉」、『国立能楽堂』382号、pp.9-10、独立行政法人国立能楽堂、6.3.
- 17 解説：「仕舞〈藤 クセ〉、狂言〈鬼ヶ宿〉、能〈梅 彩色之伝〉」、『国立能楽堂』383号、pp.11-12、独立行政法人国立能楽堂、7.3.
- 18 解説：「狂言〈呼声〉、能〈善知鳥〉」、『国立能楽堂』384号、pp.7-8、独立行政法人国立能楽堂、8.1.
- 19 解説：「一調〈野守〉、舞囃子〈井筒〉、狂言〈抜殻〉、能〈松山鏡〉」、『国立能楽堂』386号、pp.17-19、独立行政法人国立能楽堂、10.7.
- 20 解説：「狂言〈柑子〉、平家琵琶〈卒都婆流〉、能〈俊寛〉」、『国立能楽堂』387号、pp.17-18、独立行政法人国立能楽堂、11.6.
- 21 解説：「狂言〈清水座頭〉、平家琵琶〈竹生島詣〉、能〈経正 古式〉」、『国立能楽堂』387号、pp.22-23、独立行政法人国立能楽堂、11.6.
- 22 解説：「仕舞〈雲林院 クセ〉、狂言〈朝比奈〉、能〈木賊〉」、『国立能楽堂』388号、pp.17-18、独立行政法人国立能楽堂、12.2.
- 23 解説：「本日の演目について～能〈羽衣 霞留〉、狂言〈素袍落〉、能〈道成寺〉」、『第3回清能會 塩津能の會パンフレット』、10.3.
- 24 解説：「ミュージカル〈レ・ミゼラブル〉鑑賞の手引き（2015年改訂版）」、『日本



- 文化学科1年生学外講座用冊子』、明星大学人文学部日本文化学科、4.30.
- 25 随筆：「女形・中村魁春の背中」、『能・スケジュール』1～3月号、一般社団法人観世会、1.1.
  - 26 随筆：「楽しいだけが演劇ではない」、『能・スケジュール』4～6月号、一般社団法人観世会、4.1.
  - 27 随筆：「茶の湯と能」、『能・スケジュール』7～9月号、一般社団法人観世会、7.1.
  - 28 随筆：「性差を超える藝」、『能・スケジュール』10～12月号、一般社団法人観世会、10.1.
  - 29 随筆：「藝能百花撰・第44回～桜の能と歌舞伎」、『孤峰』平成27年1月号、江戸千家茶道会、1.10.
  - 30 随筆：「藝能百花撰・第45回～梅の名は好文木」、『孤峰』平成27年2月号、江戸千家茶道会、2.10.
  - 31 随筆：「藝能百花撰・第46回～雪薺の紋どころ」、『孤峰』平成27年3月号、江戸千家茶道会、3.10.
  - 32 随筆：「藝能百花撰・第47回～花の下のしのぶ売り」、『孤峰』平成27年4月号、江戸千家茶道会、4.10.
  - 33 随筆：「藝能百花撰・第48回～雲雀山の花売り」、『孤峰』平成27年5月号、江戸千家茶道会、5.10.
  - 34 随筆：「藝能百花撰・第49回～〈ばらの騎士〉の銀の薔薇」、『孤峰』平成27年6月号、江戸千家茶道会、6.10.
  - 35 随筆：「藝能百花撰・第50回～萩の戸の萩」、『孤峰』平成27年7月号、江戸千家茶道会、7.10.
  - 36 随筆：「雪月花まわり舞台・第1回～観世清和 能〈梅 彩色之傳〉」、『孤峰』平成27年8月号、江戸千家茶道会、8.10.
  - 37 随筆：「雪月花まわり舞台・第2回～第1回「研の会」 尾上右近〈鏡獅子〉」、『孤峰』平成27年9月号、江戸千家茶道会、9.10.
  - 38 随筆：「雪月花まわり舞台・第3回～歌舞伎座九月興行 坂東玉三郎〈伽羅先代萩〉」、『孤峰』平成27年10月号、江戸千家茶道会、10.10.
  - 39 随筆：「雪月花まわり舞台・第4回～新国立劇場 ミュージカル〈パッション〉」、『孤峰』平成27年11月号、江戸千家茶道会、11.10.
  - 40 随筆：「雪月花まわり舞台・第5回～国立能楽堂企画公演 能〈松山鏡〉」、『孤峰』平成27年12月号、江戸千家茶道会、12.10.
  - 41 随筆：「政頼をめぐって」、明星大学人文学部日本文化学科ウェブサイト「ことばと文化のミニ講座」、11.1.
  - 42 個人ウェブサイト「村上湛・古典演劇評論」において評論・研究・随想を通年に互り随時公開。

C：1 一般財団法人観世文庫評議員

2 能〈葛城 大和舞〉作品研究会・合評会において表きよし氏とともにコメントイタ

- ーを勤める。銚仙会能楽研修所、主催：清水寛二・オフィスしみかん／協力：銚仙会、1.16.
- 3 復曲能〈墨染櫻〉（シテ：大槻文藏・観世流初演）の演出・監修を担当する。大槻能楽堂、大槻能楽堂自主公演研究公演、2.7.
- 4 能〈松山鏡〉（俱生神：武田志房、母の亡霊：大槻文藏、松山某：福王茂十郎）の演出新案を担当する。国立能楽堂企画公演 古典の日記念「鏡に映るものは」、国立能楽堂、10.31.
- 5 明星大学人文学部日本文化学科公開講座『『源氏物語』の世界／国家と宗教』（全8講座）の企画・立案を担当する。明星大学日野校、10.3、10、17、24.
- 6 講演：「講演「花の変容～完曲復興〈墨染櫻〉」、大槻能楽堂自主公演研究公演（復曲能〈墨染櫻〉シテ：大槻文藏）、大槻能楽堂、2.7.
- 7 講演：「柴又・帝釈天薪能プレトーク（梅若玄祥氏と対談）」、帝釈天題経寺、5.9.
- 8 講演：「能〈巻絹〉、〈通小町〉について」、セルリアンタワー能楽堂定期能9月公演～観世流、セルリアンタワー能楽堂、9.22.
- 9 講演：「おはなし～能〈自然居士〉、〈乱〉について」、大槻文藏・裕一の会、大槻能楽堂、12.13.
- 10 講演：明星大学人文学部日本文化学科公開講座『『源氏物語』の世界～〈夕顔〉講読」、明星大学日野校、10.3、10.
- 11 講座：朝日カルチャーセンター新宿教室1月期講座「能をどう見るか・能〈墨染櫻〉の完曲復興」、朝日カルチャーセンター新宿教室、1.15、2.5、3.19.
- 12 講座：朝日カルチャーセンター新宿教室4月期講座「能をどう見るか・能〈実盛〉の闘魂」、朝日カルチャーセンター新宿教室、5.7、14、6.11.
- 13 講座：朝日カルチャーセンター新宿教室7月期講座「能をどう見るか・能〈砧〉の修羅」、朝日カルチャーセンター新宿教室、7.30、8.27、9.10.
- 14 講座：朝日カルチャーセンター新宿教室10月期講座「能をどう見るか・能〈絃上〉の水脈」、朝日カルチャーセンター新宿教室、10.8、11.12、12.10.
- 15 講座：池袋コミュニティカレッジ1月期～4月期講座「世阿弥のつぶやき～『申楽談儀』精読」、池袋コミュニティカレッジ、1.26、2.9、23、3.23、4.27、6.1、8.22.
- 16 講座：池袋コミュニティカレッジ7月期講座「世阿弥のつぶやき～『至花道』精読」、池袋コミュニティカレッジ、7.13、8.10、24、9.28.
- 17 講座：池袋コミュニティカレッジ10月期「世阿弥のつぶやき～『花鏡』精読」、池袋コミュニティカレッジ、10.19、26、11.9、12.14.
- 18 講座：池袋コミュニティカレッジ1月期～10月期講座「茶の湯けいこはじめ～表千家・一から学ぶ平点前」、池袋コミュニティカレッジ、1.17、31、2.21、3.21、4.18、5.16、20、6.20、7.4、8.15、29、9.19、10.17、31、11.21、12.19.

D：1 日本文化学科1年生学外講座として東宝ミュージカル〈レ・ミゼラブル〉鑑賞会を企画、学科教員とともに引率する。（帝国劇場、4.30.）

- 2 上記企画の準備として舞台出演者（マリウス役：田村良太氏）を学内に招聘した鑑賞事前講座の企画・立案を担当する。（4. 22、24.）
- 3 日本文化学科学生研究会「源氏物語研究会」の研究指導を通年に互って担当する。

## 服部 裕

- C：1 講演：「キリスト教国家から近代民族国家へ」、明星大学人文学部日本文化学科公開講座：『国家と宗教』、10. 10.
- D：1 学科学生との自主研究会である映画研究会を9回開催し、映画鑑賞会と討論会を行った。本年度は特別なテーマを設定しなかったが、ブラッド・ピットの若い頃の作品を数本観た後に、主にミュージカルや音楽映画などを観た。中でもアカデミー作品賞にノミネートされた『セッション』（デイミアン・チャゼル監督、2014年、アメリカ）は、これまでで一番多くの参加者を集め、鑑賞後の討論も作品の解釈をめぐって大いに盛り上がった。
- 2 星友祭で映画研究会の上映会を開催し、本年度のアカデミー作品賞を獲得したアレハンドロ・G・イニャリトゥ監督の『バードマン』（2015年公開）を鑑賞した。上映後の討論会では、主に、なぜこのような作品がアカデミー作品賞を取ったのかの意味について討論した。11. 2.

## 前田雅之

- A：1 単行本  
『アイロニカルな共感 近代・古典・ナショナリズム』 ひつじ書房 平成27年4月 294頁
- 2 論文  
①「政事と文学」『書物学』3 勉誠出版 平成27年2月 24-29頁  
②「明星本『正広自歌合』の本文と校異②以下」『明星大学研究紀要【人文学部・日本文化学科】』23 平成27年3月 27-210頁  
③「顕と密—日本中世の基軸」『国語と国文学』平成27年8月号 3-21頁  
④「和漢と三国Ⅱ—イメージの奔放と捨て置かれる現実の間で—」『王朝文学とユーラシア文化（小山利彦・河添房江・陣野英則編）』武蔵野書院 平成27年10月 133-159頁
- 3 書評  
①松尾葦江編『文化現象としての源平盛衰記』『図書新聞』（3231）平成27年11月 3-3頁
- B：1 学会主催・発表  
①中世文学会春季大会開催（於明星大学、5月22～23日）、22日シンポジウム、大会テーマ「室町期の古典学」の企画・司会担当  
②西行学会シンポジウム（於神戸県民会館、8月30日）、大会テーマ「僧と和歌—

西行和歌の再考に向けて」、パネリスト発表題目「僧侶の恋歌―野僧と顕密僧をめぐって」

- ③日本文学協会大会シンポジウム（於成城大学、11月15日）、大会テーマ「定番教材を問い直す―芥川龍之介『羅生門』」パネリスト発表題目「『羅生門』―存在の物語」

2 学会の運営活動

- ①「説話文学会」委員  
②「仏教文学会」委員  
③「中世文学会」委員

3 博士論文査読

名古屋大学国際言語文化研究科畑有紀氏博士号申請論文「江戸後期文芸作品をめぐる食と養生」の副査を担当（3月16日）

4 共同研究員

国際文化研究センター共同研究「説話文学と歴史史料の間に」（代表：倉本一宏、幹事：榎本 渉）今年度～29年度まで。

第一回5月16～17日、第二回7月4日、研究会参加。

C： 公開講座、他大学での集中講義、マスメディア等における講演・論説など。

- 1 北京日本学センター・東北大学秦皇島分校・北京第二外国语学院において、「和漢と三国の日本文学」と題して講演（5月28・30日、6月1日）  
2 鎌倉文学館において「鎌倉と源氏物語」と題して講演（6月26日）  
3 明星大学人文学部日本文化学科公開講座講師（10月10・17日、『源氏物語の世界』「若菜」）  
4 弘前大学において「日本古典と大名文庫―『源語秘訣』・『正広自歌合』の書写・伝来を通して―」と題して講演（12月23日）

5 科研の研究会

- ①日時 4月25日 11時～18時

場所 明星大学前田研究室（27号館903号室）

内容

- 1 科研の目標とりわけデータベースの範囲と素材（日記・記録だけか、奥書もとるか）の検討、さらに各人の担当領域の再検討。  
2 データベースチェック体制の検討および構築作業の日程（前田・渡瀬）。  
3 今年の調査対象と日程（前田）。  
4 研究会の日程と内容（前田）。  
5 研究発表

渡瀬淳子氏「殿様の文事―『舟水和歌集』にみる白杵藩稲葉雍通公の古典学―」

内田滯子氏「『十訓抄』享受の一面」

- 6 その他

②日時 11月28日

場所 明星大学前田研究室（27号館903教室） 11時から19時

内容

- 1 データベース構築作業（渡瀬氏）と研究目的・狙い（前田）
- 2 今後の調査対象と日程（前田）
- 3 研究発表

原 克昭氏 寺院聖教目録の再構築と活用方策—いわき宝聚院聖教を基盤として—

岡崎真紀子氏 「浦島」をめぐる和歌と物語—「源氏物語研究における文化研究の可能性」にむけて

4 その他

6 科研のデータベース構築作業

①日時 3月28日～31日

場所 明星大学 27号館 903教室（前田研究室）

内容

科研メンバー各自が作成した『実隆公記』における書物の移動リストのチェック

作業者 渡瀬淳子氏・前田

②日時 12月27日～30日

場所 明星大学 27号館 903教室（前田研究室）

内容

科研メンバー各自が作成した書物の移動リストのチェック

作業者 渡瀬淳子氏・前田

7 幕末明治研究会の開催（上原麻有子京都大学文学部教授・青山英正准教授・神林尚子鶴見大学専任講師と共催）

①第十回幕末明治研究会

日時 2014年6月20日 午後2時から

場所 京都大学吉田泉殿

発表

万波寿子氏（龍谷大学・非）「真宗版本の姿とそのメディア性」

佐伯啓思氏（京都大学・名）「西田哲学と近代日本の宿命」

②第十一回幕末明治研究会

日時 2014年12月19日 午後2時から

場所 明星大学 27号館 10階 1001教室

発表

多田蔵人（鹿児島大学）「明治文学と演説」

井上泰至（防衛大学校）「秀吉の神格化—宣長から靖国まで」

8 論説

①「戦後の乗り越え方」

『表現者』58 平成27年1月 156-161頁

- ②「保田與重郎と近代・日本・古典 23 古典論の展開⑧ ゲーテ・近代・古典  
(1)」  
『表現者』59 平成27年3月 140～145頁
- ③「鎌倉と源氏物語―河内本をめぐる―」  
『特別展 スーパーストーリー 源氏物語』鎌倉文学館 平成27年4月  
58-59頁
- ④「保田與重郎と近代・日本・古典 24 古典論の展開⑨ ゲーテ・近代・古典  
(2)」  
『表現者』60 平成27年5月 146-151頁
- ⑤「小休止（コーヒー・ブレイク）の後で」  
『日本文学』平成27年6月 69-75頁
- ⑥「保田與重郎と近代・日本・古典 25 古典論の展開⑩ ゲーテ・近代・古典  
(3)」  
『表現者』61 平成27年7月 134-139頁
- ⑦「保田與重郎と近代・日本・古典 26 終章―古典論と文学史の確立① 後鳥羽  
院 (1)」  
『表現者』62 平成27年9月 176-181頁
- ⑧「面白かった、この三つ」  
『レポート笠間』59 平成27年11月 80-82頁
- ⑨「保田與重郎と近代・古典・日本 27 終章―古典論と文学史の確立② 後鳥羽  
院 (2)」  
『表現者』63 平成27年11月 184-189頁

#### D：1 文献調査

- ①科研（基盤（B）、室町～江戸初期における書物移動と大名文庫の蔵書形成に関  
する総合的研究  
研究課題番号：26284041）による文献調査。  
日時 8月18日～21日  
調査地 島原市立図書館（松平文庫）
- ②文献調査  
日時 2月18日～19日  
調査地 白杵市図書館（白杵藩大名文庫）  
日時 9月1日～2日  
調査地 白杵市図書館（白杵藩大名文庫）  
日時 12月24日  
調査地 東奥義塾高等学校図書館（藩校稽古館蔵資料）

#### 2 ゼミ等の教育活動

二年次配当の日本文化基礎演習では、前期は『宇治拾遺物語』、後期は『百人一首  
切臨抄』を扱ったが、40人あまりの受講者を八班に分け、それぞれ前期三回、後



期三回の発表をさせた（内容は、読み上げ・現代語訳・調査、現代語訳はすべて文章化させる。『切臨抄』には既存の現代語訳はない）。次第に古典の文章が読めるようになっていくのも現れ、古典読解力をつけるのにはこの方法しかないと感じた。今後も継続する予定。三年次配当の日本文化演習では、昨年同様、『古今集』を選び、古注（『両度聞書』・『古聞』・『顕注密勘』・『栄雅抄』など）の読み上げ・現代語訳、現代注（『新大系』・『新全集本』・『古典集成』・『角川文庫』）の検討、類歌・影響歌の調査と現代語訳を一人ずつ担当させ、毎回、三首発表とした。一年間で一人五～六回程度発表することになったと思う。こちらもちょうどかなりの負担量であるが、和歌の読解力・古注の理解力で著しい伸びを示した学生も二三割出てきたので、来年も継続する予定である。最後に、四年次配当の卒業研究は、前期はテーマ設定・目次案・参考文献・狙いなどを発表させ、後期は個別指導となった。今年は、一人の優秀論文が出てきたが、二人の男子学生が未提出で終わるなど課題を残した（女子学生は全員提出した）。とまれ、卒論ほど教育効果はあるものはないと改めて確認した次第である。